

## 令和4年度第1回文化芸術に関する意見交換会

- |                        |   |
|------------------------|---|
| 1 日 時                  | 令和4年8月31日（水） 14時00分～16時00分  |
| 2 会 場                  | ときわ会館5階 中ホール  |
| 3 出席者<br>(敬称略、役職・五十音順) | (1) 委員長<br>村上和夫<br>(2) 委員<br>あらい太朗、市橋大、小田慎也、川崎賢一郎、小泉文、<br>小林桂子、渋谷七恵、関井一夫、遠山昇司、吉原浩<br>(3) 事務局<br>スポーツ文化局 鶴田局長、川田部長<br>文化政策室 吉田室長<br>(4) 欠席者<br>新井久夫、加藤崇寿[晴彦]、坪内間                                   |
| 4 公開・非公開の別             | 公 開   |
| 5 傍聴人の数                | 0人  |
| 6 内容                   | (1) 開 会<br>(2) 挨 拶 (スポーツ文化局長)<br>(3) 委員改選<br>(4) 副委員長の選任<br>(5) 報告・意見交換内容<br>① さいたま市文化芸術都市創造計画の令和3年度の施策状況について<br>② さいたま国際芸術祭2023の準備状況について<br>③ アーツカウンシルさいたまの創設について<br>④ その他<br>(6) その他<br>(7) 閉 会 |

## 会議記録

- (1) 開会
- (2) 挨拶（スポーツ文化局長）
- (3) 委員改選
- (4) 副委員長の選任
- (5) 報告・意見交換内容

### <① さいたま市文化芸術都市創造計画の令和3年度の施策状況について>

事務局 [資料1] さいたま市文化芸術都市創造計画の令和3年度の施策状況報告、[資料2] さいたま市総合振興計画実施計画（抜粋）、[資料3] さいたま市文化芸術都市創造計画 概要版 を中心に説明

村上委員長 ありがとうございます。ただ今の事務局からの説明につきまして、ご意見、ご質問があればご発言いただきたいと思います。

小田委員 市民会館おおみやのオープンについて、私は音楽系の団体をやっていますが、大ホールは使用したことはないが練習スタジオを使用しました。利用者からしたらありがたく、立地も素晴らしいところだと思います。4～8階の市民会館っていうのはおそらくさいたま市では初めての建築物だと思うが、利用者の立場からすると使い勝手が難しい部分があります。浦和のパルコの上のコミュニティセンターの音楽スタジオがあるが、そちらは人気でまず予約が取れません。一方で市民会館おおみやの練習スタジオは結構ガラガラです。この差は何かと思ったので、その原因を分析しながら利便向上を図ってほしいです。1コマ1,000円以下であの立地で3～4時間使えるということはすごいことだと思うが、なぜおおみやだけ埋まらないのか私も分からないところがあります。

事務局 音楽スタジオについてプラザイーストやプラザウエストにあり、大変利用率が高いことがあり需要があるため市民会館おおみやにも設けた次第です。大ホールについて、音響について御好評をいただいております。大ホールについては、1年先まで週末を中心に予約は埋まっているという状況です。練習スタジオについては周知が足りない部分があるかと思っておりますので、文化振興事業団とともに周知を図っていきたいと思います。

小田委員 市民会館おおみやの大ホールの反響板を降ろすのに2時間半かかるの

で音楽団体は困っている状況です。前日の夜から借りて夜は反響板を降ろすだけにした団体もありました。

事務局 先ほど説明した音響が良いところの反面の部分だと思いますが、反響板自体が1枚で構成されている関係で少し時間がかかってしまいます。利用に関して制限が出てしまうということについては、レイボックスホールに情報共有させていただき検討していきたいと思います。

村上委員長 ありがとうございます。  
私から1つ質問があります。新型コロナウイルスの影響で催事が中止となったとありますが、お話によるとそれほど大きなパーセンテージでもなさそうです。どんな事柄が中止になったのでしょうか。あるいは途中から再開した事業等があったのでしょうか。

事務局 例えば、解説付きシネマ歌舞伎ですが共催者との協議等で中止になったという経緯がありました。鉄道ふれあいフェアのように飲食を伴うものを並行して行う大規模なイベントは中止になってしまっています。また、その他についても実施の時期によって、コロナ感染は波がありましたため、止むを得ず中止にしたイベントがあったと思っております。

村上委員長 やっぱり再開したものはありませんでしたか。

事務局 大宮盆栽美術館の講座について、オンラインに切り替えて実施するなど、実施方法を変更したものはありました。

村上委員長 ありがとうございます。他にご意見ありますでしょうか。  
ないようですので、次に報告・意見交換内容(2)について事務局から説明をお願いします。

#### <② さいたま国際芸術祭2023の準備状況について>

事務局 [資料4] さいたま国際芸術祭2023開催実施計画 を中心に説明。

村上委員長 ありがとうございます。ただ今の事務局からの説明につきまして、ご意見、ご質問があればご発言いただきたいと思います。

あらい委員           これ（開催実施計画の裏表紙）は何ですか。

事務局               ドット自体が量子力学的な粒子を表してしまっていて、一個一個がロゴマークだという説明がありましたとおり、それを表紙と裏表紙で対比させたものということで御理解いただきたいと思います。これを街中の展開ですと、このロゴは色んな形に変えることができますので、例えば大きな水玉みたいな形にしてフラッグにして掲出していくことも考えられますし、これでヒト型みたいのを作る等、展開を図っていきたいと思います。

あらい委員           すごく面白いとは思っているものの、ロゴというのは、説明付きではないので、パッと見たときにファーストインプレッション、これは面白いな、何だこれは、何やるのかなという方が良いロゴだと思います。前にお話した芸術祭についての3つの大事なことのうちの1つに、人を集めるための戦略が必要だと村上先生がおっしゃっていました。そういう意味で言うとおそらくこのロゴは通り過ぎます。実行委員会の人皆さんが理解してしっかりと浸透させる気持ちがなければいけないと思います。ロゴを否定するわけではなく、面白いと思っていますし、これ自体が芸術にも見えるけれども、まだ爆発していない気がします。このロゴで何でも形が作れるというのであれば、私が漫画家だからかもしれませんが、これのパロディを広く募集すれば逆説的に何か面白い展開があると思います。いずれにしても、これを扱う人たちがロゴについての意味を理解しないと失敗すると思います。前回のロゴも結構な色合いがありましたが、誰も知らなかったです。次に、遠山委員は今回なぜディレクターをやらなかったのですか。

遠山委員           公募であり前回やりましたのでやらなかったです。

あらい委員           前回は作品としては面白かったが、再生回数が少なかった。もっと、見る仕掛けが必要だと思いました。面白いという意見はもちろんありますし、つまらないという意見もあった上で再生回数が増えると思います。要は、騒がれないと再生回数は増えないので、そこの橋渡しを何か考えなければいけないと思います。その中でも面白いなと思ったのは、14 ページの左下の裏アートさいたまの盆栽の写真です。大きな冊子があったと思いますが、私はそれをイベントが終わった後に見ました。こんな面白いものがあったのかと思いました。ビジュアル的にすごく面

白かったし、こういうのを観たかったし、一番食いつくとも思いました。また、19 ページの浅見さんですが、私も市民プロジェクトがきっかけで知り合いました。すごく熱のある方で市民の側から色んなことやろうとされている方で、私もすごく賛同しています。市民の側から発のさいたまの芸術祭とするためには市民プロジェクトをもっと手厚くしていくべきだと思います。専門家の方をお呼びして開催するのは1回目、2回目はしようがないかもしれませんが、さいたまの視点から生み出すこれまでにない芸術祭を発信していくためには、地道に活動している方をもう少しバックアップしてバランスをよく見ないといけないと思います。外から芸術家が集まって開催するのは、芸術祭としては成功するのかもしれませんが、さいたま市の芸術祭ということについてはいつまでたっても成就しないと思います。こういうことを今までずっと言ってきたが今まで達成感がありません。私は漫画家なので漫画に特化して話すと、未だに役所のほとんどの場所に北沢楽天さんの絵が飾っていません。つまり、人の目に、なぜ漫画なのかというのが全然触れられなく、盆栽・漫画・鉄道を由来にしたレイボックホールにも飾るところがいっぱいあるのにどこにも飾っていません。そういうところのアピールが足りないと思っています。私もラジオをやっていて良くも悪くもそういうことを言えますから、今後、今芸術祭が盛り上がっているというような内容を喋りたくなるような宣伝を行っていただきたいです。

村上委員長

遠山委員、あらい委員のご発言を引き継ぐ形で意見をお願いできないでしょうか。

遠山委員

あらい委員がおっしゃっていたロゴについては、ある種、現代アートチーム 目 [mé]の特徴が出ているとっていて、確かに前回のロゴの方が分かりやすかったが、目 [mé]は繊細で細やかなチームで、このロゴは作品に近いので、システムとしてアートプロジェクト等に流通していける(使用していける)のかなと思いました。あと、目 [mé]は、我々が一般的に何気ない日常風景を軽やかにひっくり返すことを得意とするチームなので、2023 の時にも度肝を抜くようなひっくり返し方をしてくれると期待しています。それは2020の時よりも顕著に出ると思っています。2020の時私は、どう伝えるかについて特化していました。例えば、先ほどあらい委員がおっしゃっていた裏アートさいたまは、私の直轄事業の一つでしたが、盆栽、鉄道、人形などさいたま市が持つて

いる歴史的、若しくはそういった物語を吸い上げて芸術祭の骨格を見せました。目 [mé]がまだ何をやるかは分からなく、目 [mé]というチームの特性しか分からないが、またその次をやろうとしているのではないかという気がしています。また、前回 2020 から 2023 の開催概要の変化というものをチェックしたのですが、ひとつは、芹沢さんがディレクターをした2016の時はサイトスペシフィックというさいたまの地域性を重んじました。2020 はそれを継承しながら行ったが、コロナで中止等になってしまったので止まってしまったという感覚をもとに、時間軸を考えるようになりました。2023 はここにタイムベースドと書いてありますが、より時間軸を強調していくような展開を考えているのではと思います。ですから、さいたまの土地性だけではなく生活都市さいたまの時間の流れをこの開催概要を見て感じました。あとは、質問になりますが、18 ページの各プロジェクト概要の創発 in さいたまですが、前は浦和地区を中心とした街巡り事業でしたが、今回はもっとさいたま市広域的に展開するというのでしょうか。

事務局

そのとおりです。前は美術と街巡り事業の拡大版という形でしたが、前回は季節が異なるということもあって、創発 in さいたまという形でリニューアルして、今回も数多くの地元の作家の方に参加いただくような展開になると伺っております。

遠山委員

ありがとうございます。あと、先ほどあらい委員がおっしゃっていた市民プロジェクトとアートプロジェクトの話ですが、私がディレクションしていた時は、全然市民プロジェクトを軽んじていることはなく、むしろ市民プロジェクトに力を入れていました。今回はひとつセクションが増えていてアーツさいたま・きたまちは前回連携プロジェクトとして行っていましたが、今回は市民プロジェクトの中に入ってきているというのが違いかなと思いました。あとは、広報基本戦略についてですが、前は 100 日前イベントというものをやりましたが、今回はそういった計画ではなくて、単純に6月に記者会見を開いてアーティスト発表するという流れでしょうか。

事務局

そうですね。前は当時のプロモーションを担っていた会社からそういう提案を受けてそれが良いなとなって 100 日前イベントをやりましたが、今回は、その期間はどちらかというと制作に注力したいという意向と、また、そういう適切な場所を作ってイベントを開催するという会

場の制約がありまして、イベントとしてやるということは計画には載せておりません。ただ、街中での何らかの展開は当然考えておりますので、この記者発表会とともに街中でのイベントについては企画していきたいと考えております。

村上委員長            ありがとうございます。それでは他のご意見はありますでしょうか。

市橋委員               公式ウェブサイトやSNS等を使用してというところですが2020の時はツイッターやフェイスブックのフォロワー数はどれくらいだったのでしょうか。先ほどフェイスブック見たところ約3,000人のフォロワー数でした。3,000人くらいの人しか見てない、ひょっとしたら見てないかもしれない可能性があると思います。読売新聞の支局長のところをお願いして記事を書いてもらうなど、若い人は新聞をほとんど読まないかもしれませんが、記事効果はある、お金はかかりますが。SNS使うのであれば、発信力のある方を1人起用されるだけで、その方によってフォロワー数も増えるし発信力も当然広がってくると思いますので、こういうところの人選に関しては、そういった面も少しご配慮いただきながら、限りある予算の効果的な使い方を我々市民も期待しています。

村上委員長            ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

小林委員               あいち国際芸術祭に行ってきましたが、とてもよく整備されていましたが、あいちはここ(さいたま)と似ている感じがしました。日本中でアートフェスティバルが開催されている中、さいたまに注目してもらうためには、28ページの「これまでにない芸術祭を」というところを示すことが必要だと思いますが、これは具体的にどういったことなのでしょう。

事務局                 これは、今ディレクターがまさに掲げているものでございますが、ディレクターがおっしゃっていることをそのままお伝えしますと、国際芸術祭、展覧会というのは、会期中に誰が見に行ってもどのタイミングで観に行っても一定のものが継続的に観られる。昨日観に行った人あるいは1か月前に観に行ったという人はある程度感覚が共有されますが、ただ、今回は先ほど遠山委員からもありましたタイムベースドというものがありまして、一期一会が連続するといいますか、時期をずらして

見た人たちの感覚が共有されないことも有り得るということがあり、そういう気づき方というのものではないかという話をしていました。普通の芸術祭を目指しているのがある一方で、これまでにないさいたまの芸術祭ということで、このさいたまの土地性を踏まえた上で、そういったものが良いのではないかということで提案をいただいているところでございます。

小泉委員 29 ページのターゲット①に年齢 30 代 40 代を中心としたという記載があり、主要な来場者層が 30 代 40 代とありますが、理由は何でしょうか。分析して分かったことなどあれば教えていただきたいです。

事務局 その点につきましては、今回、国際芸術祭に親しんでもらいたい子供たち、要は、芸術祭を通じて一番刺激を受けていただきたい方々はさいたまに住んでいる子供たち、というところを想定しています。つまり、子育て世代である 30～40 代の方々、ファミリー層と書けば良かったのですが、そういう方々に来てもらうことによって芸術祭に親しんでいただく、アートに触れていただく、そういう機会を 30～40 代の方々に体験してもらいたいという意味で書かせていただきました。他の年代を排除するという意図ではなく、主にターゲットとして描いているのはそういう方々だという風にご理解いただきたいと思います。

村上委員長 このメインの対象者を 30 代 40 代とするのは良いですよ。日本全体で見たときに、こういうことを言えるのは埼玉県、千葉県、神奈川県、東京都くらいしかありません。私は九州でよく仕事をしますが、福岡市ですら人口の高齢化が急速に進んでいます。北九州市は政令指定都市ですが人口が大きく減っています。高齢者に重きをおかず、30 代 40 代をターゲットにしていると北九州市で言ったら人口の“メインを外して”と怒られるかもしれません。さいたま市の国際芸術祭はこれまでにない極めて時代性を強く反映した芸術祭の一つのスタイルだと思います。全国的に人口が減少している層の人たちを応援するというメッセージが芸術の方からも出ているということを伝えるものだと思います。30 代 40 代というのは単純なマーケティングから来ているわけではなく、市の資金で企画運営するわけなので、市がどういう意志を持ち、役割を担うのかというのが重要で、さいたま市の中で 30 代 40 代というわけではなく、埼玉県や群馬の南部等も含めて、近隣他県あるいは全国にメッセージ（パワー）を送っている、そういう印象を際立たせてい



くっていうのも私はありだと思います。そういった意味で、この市民プロジェクトをどうやったら浸透させていけるのか、先ほど市橋委員がおっしゃっていた浸透のさせ方というのをもう少し考えた方がよいと思います。例えば、皆が食べるお菓子里に、小さなロゴマークを付ける、バス会社の1番とか2番とかのところにマークを付けるなど、どこに行っても先ほどあらい委員がおっしゃったロゴが見えるようにして、そこに小さくさいたま国際芸術祭皆で行こうというようなメッセージが書いてあると良いのではないかと考えています。

他にご意見ありますでしょうか

渋谷委員

先ほど小林委員の発言と重複しますが、広報活動指針を見たときに、これまでになかった独自の芸術祭というのは市民参加がこれまでになかったことなのか、先ほど説明のあったタイムベースドがこれまでになかったことなのか少し分かりにくい印象を持ちました。

事務局

市民参加もさいたま独自性を打ち出しているというもので、例えばあいち等にもサポーターはいますが、サポーターの自主活動が活発で実際に参加していると言えるのは、実際はさいたまだけということを目指しているところではあります。これまでになかったという言い方が抽象的で非常に恐縮ですが、目 [mé]の皆様がビックリさせたいということで詳細の説明は控えさせていただきたいです。

渋谷委員

アーティストの招聘というのはどういった流れでしょうか。

事務局

現在、選定を進めているところでございます。  
実施するための予算が決まっていないというところがありまして、9月の議会で審議いただいた上で決定することとなっております。本格的に動き出せるのは議会の承認を得た後になりますので現在は調整しているという段階です。

渋谷委員

こういったアーティストを呼びたいなどの意見は言えませんか。

事務局

そんなことはありませんが、全体のテーマやディレクターの意向も含めてアーティストの選定をしていくので、ご意見として伺って伝えることは可能でございます。

渋谷委員 演劇で岩井秀人さんがやっている「劇団ハイバイ」さんが良いかなと思います。

村上委員長 実は市民参加って言葉はすごく古い言葉で今はリベラルな方々もほとんど使わない言葉で1970年頃の言葉です。市民参加という言葉と表裏一体の言葉は、でしょうか。実際には、理念を表す言葉として理論的な用語として使うのであれば多様性です。しかし、市民参加を言うならば、住民や普通の人と言うような曖昧な言葉として用いるのはおかしいことで、そこには色んなタイプの人、表現したいキャラクターも一人ひとり違うので、どのキャラクターの人がそこに参加できるのかというのがすごく重要になってきます。市民参加という言葉は演劇や舞台の話とつながります。市民参加型プロジェクトという言葉をもし用いるなら、できたら、芸術の多様性というように別のコンセプトとのつながりで新しい空間を創り出しても良いのではないかと思います。すごく良いご指摘でした。ありがとうございました。次に報告・意見交換内容(3)について事務局から説明をお願いします。

<③ アーツカウンシルさいたまの創設について>

事務局 [資料5] アーツカウンシルさいたま基本構想 を中心に説明。

村上委員長 ありがとうございました。アーツカウンシルにつきましては、前回の昨年12月の意見交換会時にご説明はありましたが、少し輪郭が見えてきたような感じになりました。皆さん、ご意見ありますでしょうか。こうだったら良いななど何か期待のようなものがあればお願いします。色んな考え方があると思います。例えば、芸術家を助ける、そんな言葉がありました。分かりやすく言うと中小企業支援のような、決して、ものづくりの企業の能力が低いわけではなくて、ものを手作りしているから大企業になり難いわけです。それから、アーツカウンシルをやるというときに、世界的にみてこういう事例があります、また、今の日本社会の中で事業をやる上での人々や人と組織の連携のような組み合わせの作り方などのような話をされても良いかもしれません。それから、先ほどありました市民参加、今で言うところのソーシャルインクルージョン(社会参加)という考え方もあるだろうし、これは皆さんにお一人ずつ意見を聴いていきたいと思います。いかがでしょうか。

関井委員 先日、茨城の笠間の陶芸美術館に行ってきました、これはさいたま市と

関連付けられると思いますが、笠間焼というものの自体は若い作家、変わった作家がいっぱい集まってきているがそれほど有名ではない。ただ、笠間焼は色々変わったものがあるということで、色々宣伝をしています。さいたま市は色んなものがあるかもしれませんが、これだというビジュアルアートがあまりないですね。関東圏で芸大に通っている学生も多いので、さいたま市も作家もいることはいるのでしょう埼玉県も含めると。そこで、トリエンナーレなどをやっていきながらさいたまとしての芸術をアピールする。となったときに、全くプロとしての勉強をしていない人たちも含めて、又はプロとして勉強をしてきたいわゆる作家の卵を発掘する場が実はある。茨城に行って思ったことは、お土産コーナーで笠間の作家の作品が販売していました。そういうことを実際にやっていくと買っていく人も出てくる。先ほど SNS の話が出ましたけれども、9月からのイベントは、芸能人の白石美帆さんが、「白石美帆さんと探す、あなたに合う食器」のような展覧会をやってしまうのです。あまりプロデューサー自体は有名ではないですが、かなり地道ながらも掘り起こしや宣伝をやっているなど感じました。アーティストを発掘していくのであれば、美術館構想がどうなっているか分からないですけれども、作家たちにチャンスを与える、チャンスとは何かといえば販売です。トリエンナーレのイベントもそうですが、そこに参加してくるアーティストは助成金を得ながら活動しています。働かないで助成金だけで活動している人もいます。そういうやり方以外に笠間焼の作家たちはモノを売っています。売った経験がなく売るチャンスもない方が多いですが、作品の値段等にもよるかもしれませんが、もしも売れたとしたら、どうなるでしょうか。もちろん、芸術作品の売買の話で色々議論になるのは当たり前としておいても、ただチャンスは必要です。音楽の場合は、チケットを販売して稼げます。何らかの形でアーツカウンシルをつくっていくのであれば、若い世代へチャンスを作れるような形を考えてもらえればと思います。もし美術館をつくるのであれば、ミュージアムショップをつくっていただき、販売できるようなものがあるようにする。美術館というより芸術センター、アートセンターのようなものになると思いますが、多くの方にチャンスを与えていただく、そうすると、トリエンナーレのようなものに参加したいと思う人たちが集まってくると思います。そのような形での支援活動を構想の中で考えてもらいたいなどは思います。

村上委員長

ありがとうございました。他にいかがでしょうか。

あらい委員

私はずっと大宮生まれ育ちですが、北沢楽天さんは知らなかったです。漫画家になって北沢楽天顕彰会に入りませんかと言われて初めて知りました。ただ、漫画会館は散歩コースだったのでよく行っていました。アーツカウンシルさいたま基本構想を見てどうですかと言われても、動かしてみないと特に市民は分からないし、動かしてみても何ともなっていないようだったら何ともなっていないということだと思います。良いねというようになるようにしてほしいです。今まで色々言ってきた止まっちゃったと思ったのは、具体的な話をしたいと前の公募の委員の方が言っていて良いなと思って個別で受けますということで終わっていましたが、結局具体的な話ができないままここまで来ている気がします。色々な方に門戸を広げてしっかりと受けてそれに対してしっかりと返すという仕組みをつくっていかないといけないと思います。そうしないといつまで経っても芸術祭というものだけがあって、あるいは芸術祭という理念だけがあるだけになってしまう。理念と市民をつなぐところが大事だと思います。これはずっと言っていますが何とかしてもらいたいです。あと、事務局に女性がいらっしやらないので女性がいた方が良くないかと思いました。色々な意味での多様性のバランスは必要だと思います。

渋谷委員

私も女性がいないのは気になりました。

関井委員

アーツカウンシルができることで、窓口はすごく見えやすくなると思います。役所の中に窓口があっても誰も来ないかもしれませんが。あとやはり女性というか男性以外の方が必要だと私も思います。今見ているとどういった形で入ってくるのかよくわからないのですが、基本的には今まで役所の文化振興課でやってきたものを役所の中だとローテーションがあって異動してしまうからだと思いますが、一般の方なども採用するというのでしょうか。

事務局

体制の話をしてと文化振興事業団の職員や PD（プログラムディレクター、PO（プログラムオフィサー）など専門的な方については外部の人材を考えているところでございます。

関井委員

学芸員のような方はいますか。

事務局 文化振興事業団でアーツカウンシルの設立に合わせて採用した職員の中に学芸員資格を持っている方はいらっしゃいます。事業として、関井先生がおっしゃられていました若手のチャンスを与える場のようなものは当然この基本構想の中に人材の育成というものが入っておりますので、そういった事業をこれから具体化していきたいなという風に考えております。ただそれがいわゆる美術館的なキュレーターなのかどうという形にするかというのは今後検討が必要だと思います。

関井委員 我々は具体的なものが見えてこないと何もないとわからなく、目で見えたものでないと判断できないところがあるのですが、どの程度融通が利くのか、もう固まってしまっているのか、その辺のところはいかがですか。

事務局 これは、来年度の実施事業にかかってくる話ですので、予算的なものが見えないと、話を申し上げることが難しい状況です。もう少しお時間をいただければ、具体的な話ができるのかなと思います。

あらい委員 私が言いたかったのは、色んな人たちがすごく前向きに来ている中で、ここで話し合った内容を萎えさせちゃダメだと思うということです。市民の芸術への衝動というようなものを行政が受け入れるというシステムを作っていくのだと思うから、相談に行って戻ってこさせるようなことになってはいけないと思います。だから皆さんがパッションを持ってほしいと思います。

村上委員長 わかりました。今のお話を聴いているとアートが持っている偶発性、何かを転換させるような、美しさのフレームを変えて人々に新しい視点を与える、そしてそれが尚更美しい、つまり品位が高いというような状態。そういうようなことが我々の社会で許されることを皆が知る。例えば、視点を変えてみたらただ高額のものを買うよりも、こんなに美しいものが存在することに気づくとか生き方を変えるような、そういうような機会があって初めてアートの存在価値が成立するので、そういうようなことを保証するという人があちらこちらにいて、その人を支えている組織があることが必要なことです。そういう機会が偶発的であっても保証する必要があります。先ほどあらい委員がおっしゃった相談に行った人が断られちゃったという話ですが断られなく、その話が2回目だったら“それは剽窃といいます”と教えてくれるとか、そうい

ったことがきちんとできるような組織が出来上がってくるとよいのではないのでしょうか。それが、アーツカウンシルが人々に開かれていくということの一つの形なのではないかなと思います。

それから少しお聴きしたいのは、アーツカウンシルに僕たちがものすごく多くのことを期待するとおそらくダメということです。なぜかというと、公的な組織なのでやれることには限界があるためです。そう考えると、公共性という部分に乗らなければアーツカウンシルはやれないのかという問題にぶち当たります。さて、そうなる僕たちはアーツカウンシルを支えるような組織や活動をどうやって創っていくのかということを知りたくなります。アーツカウンシル友の会のようなものをつくるのか、アーツカウンシルのメンバーと一緒に秋ヶ瀬公園を歩きましょうなどのハイキング、それからアーツカウンシルの皆さんと一緒に今日は競馬場で競馬観ましょう、勝ち負けではなくどの馬が一番かっこ良いか皆で決めましょう、そんなようなアーツカウンシルを支える活動がどのようにあったら良いのか考えてアートの可能性を広げ、アーツカウンシルを支える。皆さんはどう思いますか。僕は、アートというものは2つのものが合わさるというイメージがあります。どんなに絵が上手な人がいても絵だけでは多分ダメです。その絵に描かれるものというものがないとダメなので、別の意味では色んなものが一緒になって連携していくというところにアーツが生まれる、アーツだけでは広がらない。そういう風にアーツカウンシルは何と連携したら良いのだろうというときに皆さんはどうですか。

遠山委員

村上先生がおっしゃった指摘というのは私もアーツカウンシルに問題意識としてあって、役割をアーツカウンシルに期待するときに思ったのが、アーツカウンシルというのは、施策の多様な分野と文化芸術との有機的な連携というところで、アーツカウンシル自体がそれを役割として持っていますが、せつかく芸術祭があって美術館があって、自治体があってだと、芸術祭2020の時も市民サポーターがいらっやって、それを成果物につなげるのが良いような気がしました。アーツカウンシルがそれをやるというのが世の中としては一般的な役割にはなっていますが、さいたまの場合はそれらが全部複合的につながってひとつの星座となってその星座に名称をつけるくらいの働きができると、他の自治体はアーツカウンシルを背負わされているが、さいたまはそんなに背負わなくてのびのびと広がっていくような感覚があるなと思います。

村上委員長           ありがとうございます。では吉原委員どうでしょう。メディアはアーツカウンシルと一緒にやれますか。

吉原委員           今色々とお話を伺って、色々目的があってひとつは芸術祭の中で国際性という言葉や市民参加、芸術の多様性ということあるが、国際性は何をもって国際性というのか。今までの印象ですと、海外の著名なアーティストを招聘してというのが国際性というようなイメージが強いです。これだと割とどこの地方都市でもやっているもので、著名な方を招聘すれば国際性豊かなものになるのか。国際性がないと市民参加だけですとなかなか目的としても達しないということがあるので、柱を設けてやっているとは思いますが、メディア側としてはどういうところに反応するかというと、意外性がないとなかなか見出しにもならないというものがあまして、こんなサプライズがありますよっていうのを紹介したいっていうのが一つの動機にはなると思います。そういうのが欲しいなというのが、どの局面においてもあると思います。どちらかということ行政が主体になると割と等間隔で色んなものを重点的に落としちゃいけないっていう心理が働くとは思いますが、そういった面で非常に、はじめ、あらい委員がおっしゃっていたドットの展開で子供たちを巻き込んで色んな作品なり募集もできると思います。パラパラ漫画のような動画のような形もできると思いますので、そういう意外な展開が見たいなと思いますし、そういったものを目にして皆が会場を回っているというようなそんな風景があると満足感が持てるのかなと思います。先ほど言い忘れましたが、国際性という観点から言うと、これから色々知恵も出てくると思うのですが、参加者の多様性ということも含めて色々やれたら楽しいのになという風に思います。

村上委員長           ありがとうございます。小田委員いかがでしょう。

小田委員           私は現状、アーツカウンシルというものが今一つ把握できていない部分がありまして、事業団と役所の外側に本サブのような組織ができるのでしょうか。

村上委員長           簡単にご説明を事務局からお願いします。

事務局           簡単に言ってしまうと、市民や市内で活動されている団体様が手軽に

相談しに行ける、それが市民生活とアートをつなぐ橋渡しとなる場になる、そういった説明をよくします。例えば、音楽活動をしている中で活動の場所がないですとか、こういう人たちと一緒にセッションしたいですとか、それを蓄積している人材なり活動場所を紹介することでつなぐ、そういった役割を果たしていきたいと思っております。

小田委員

具体的なものが見えてこないとよく分からないのですが、話がそれるかもしれませんが、さいたま市の音楽ということで考えて言うと、確かにアマチュアの音楽団体として活動している人たちはそれなりの数がいると思います。そこからプロフェッショナルというか音楽の卵、音楽家として活動している場はあまりいないのかなと思います。例えて言うと、川崎や横浜や千葉にはプロフェッショナルなオーケストラというものがあります。埼玉県にはプロフェッショナルなオーケストラというものはいないですよ。例えば、音楽大学は川越にはありますけれども、さいたま市にはないです。ただ、さいたま市出身の音楽家というのは山ほどいて、その人たちがどこで仕事をしているのかということ、確かに、さいたま市の施設を使うということはあるかもしれませんが、プロフェッショナルな音楽活動の場はさいたま市にはあまりないというところが、少し課題かなと思います。例えば、さいたま市の小学校や中学校で音楽教室として年に1回オーケストラが集まってきますが、やってくるオーケストラというのは大体都内のオーケストラです。それが、先ほどの横浜や千葉だと、千葉の小学校には千葉のオーケストラが来るわけです。そういう環境があるのに、さいたま市はこれだけたくさん的人数がいてそういう人たちが活動していないのかなということもあるので、もしそういったところと市民、アマチュアをつなげる機能がアーツカウンシルで実現できるのであれば期待したいかなと思います。

事務局

そういった意味では、たくさんいる人材の部分を市や文化振興事業団で把握できているのは現状、ごく一部です。そういったものを広げていく必要があり、その色んなマッチングをしていく中で適材適所ではありませんが一番合った方を紹介できるようにするとか、また、紹介することで、小さな話かもしれませんが商店街等でイベント・コンサートやりたいということになり、それならこの方を紹介できるというような体制を作っていけるのではないかと考えております。



村上委員長           ありがとうございます。小林委員、メディアとアーツカウンシル、ご意見お願いできましょうか。

小林委員           まず、5 ページ目のミッションのところ「市民」というワードが出てきますが、では、在住は良いけれど在勤はダメなのか、市民の人はさいたま市外でやるものはダメなのかとか、そんなことを考えました。「市民」を取ってしまった方が、逆にさいたま市のアーツカウンシルにとって良いのかなと思いました。もう1点、事業活動でA、B、Cとありますが、一般的にはAの助成がメインのところかなと思います。この助成の出し方についてもアーツカウンシルの特徴が出てくると思います。一般的なアーツカウンシルは年に1回公募して半年くらい色々行い、お金が決まるということが多いです。海外、特にイギリスなどの助成に積極的な国では随時申請ができ、国（芸術文化振興会）も最近変わりましたけれども、申請額から検討するのではなく、定額で出すなど色々なやり方があります。できればそういった特徴を出していただくと良いのではないかなと思います。例えばさいたま市では、30万円ならA4 1枚程度のシンプルな申請で出るなど、アーツカウンシルさいたまの目玉をぜひ考えていただきたいと思います。

村上委員長           ありがとうございます。メディアについてはいかがでしょうか。

小林委員           目玉という意味でいうと私はデジタルアートの専門ですが、先ほど少しお話がありましたが、デジタルアートの作家さんは、ほぼ、アート作品を販売することだけで生計を立てている方がいません。アートフェスティバルへの出展は、作家活動の大きな位置を占めています。そしてデジタルアート、メディアアートには制作・展示に大きな費用がかかります。目玉としてそういった部分を先駆的に助成してみるなど、そういったことを考えていただくと嬉しいなと思います。

村上委員長           ありがとうございます。まさにそうで、国際芸術祭もアーカイブにしていきたい、もちろん展示物そのものもそうですが、展示物の収蔵はすごく大変なため、デジタルでアーツカウンシルがきちんとそれを持っていて、場合によっては一部の権利を持って、それをデータとして販売していく、そうすると次のステップにいけると思います。そうすると NFT の議論になっていきますが、NFT の議論は必ず必要な議論です。しかしまだ少し早いような気がします。また、先ほどありました補助・支援金

のお話、果たして市が市の予算の中でそれを作るのが良いのか、それに対して皆がドミネーションするという方法が良いのか、そのあたりを解決したい。国の補助金が出て年に3回くらい募集がありますが、落ちたときに、こうすれば補助金もらえますよという指導をしてもらえます。そういうことがあれば次にいけるので、アートをこのように書き直さないとはいえない、だけれども、こういう意見がありましたよということだったり、その時の競争はこういうものでしたよだったりというような内容は伝えられます。なので、やはり補助の仕方や組織の在り方については世の中変わってきていると思います。

村上委員長

それでは、時間になりました。(4)その他につきましては、私のまとめとなりますが、なかなか難しかったです。今日皆さんにいろいろ議論していただきました。議論が出ないのではないかと心配が少しありましたが、まず、(1)さいたま市文化芸術都市創造計画の令和3年度の施策状況についてですが、心配しましたが色んな意見が出て良かったと思います。次に(2)さいたま国際芸術祭2023の準備状況について、こちらも色々ご意見をいただきましたが、このところで芸術祭が見えているのか見えていないのか、それから芸術祭の持っていく方のような具体的部分に多くのご意見があったような気がします。まだ、それほど回を重ねているわけではないのでもう少し回を重ねてみる必要があるかもしれません。

それから、私のイメージとしては、芸術祭とさいたま市に住む・通っている人たちのアイデンティティ、何があるのと言われたら「芸術祭がある」と言えたら良いなと思います。そういう意味では駅やバス停に「芸術祭」と書いてあると「芸術祭」で降りるといえる。そんなようなことがあるのかなと言えます。最後に(3)アーツカウンシルさいたまの創設についてですが、ここはたくさんご意見がありました。

最後に、私がアーツカウンシルについてここで皆さんにお伝えしたいのが、アンタゴニズムという考え方です。実を言うと私は高血圧症なんです。どうして高血圧症かというと心臓の電波のようなものが不整脈となっています。その不整脈を治すために薬を飲んでいて、血圧が落ち着いたので70歳まで生きられる、そういう構造になっています。その薬は不思議な薬で、理学部卒業の人はそんなに不思議に思わないかもしれませんが、アンタゴニズムという機能をもっています。それはどのようなものかということ、何かを維持するために、何かの機能が働かない

よう動きを阻害する機能です。私の場合は、心臓を動かす電気信号が働かないようにするのです。

世の中には何かの機能を助長する活性化要因というものがありますがそれとは別のものです。例えば血圧が上がらないようにするために、血圧を上げることに関連するいろいろな要素を働かないようにするのです。そのような機能を創り出すことをアンタゴニズムという名称で呼ばれます。

この頃意外と日本は古いものがある国だと外国人は言っていますが、だけど、すごく変な話です。それは、日本は昔のままだということですが、だけど実際はそうではありません。一方で日本は、自動車にしても家電にしても世界有数の技術を持っています。そうだとすると、技術大国が未だに、人類学の人たちが言うような生活をずっとやっているというのはおかしい話で、人類学の人たちが護りたいと言うような伝統的なものを残し続けることは彼らには憧れかもしれませんが、現在の生活をベースに可能な限り形を残してゆくということのバランスをうまく採ることが、“古いものが残っている”と人々が望んでいることなのです。言い換えると、“生活を便利にしながらも、古いものを上手に残してゆく”ということでしょう。

アーツカウンシルに関する議論を伺っていると、我々がアートについて議論しようとしたときに、活性化する方向を決めて動くような気がしました。しかし、それではアートが本来持つ自由で多様な方向を自ら創り出す力を削ぐような気がするのです。結局、活性化要因だけを考えて、アートのことを考えてもそれでは役に立たなくなる可能性があるのです。そうだとすると、例えばアートの活動のための公設スタジオを造りそこを利用する人を“市民”と規定して彼らの活動を活性化しても役に立たないのです。むしろ剽窃の禁止のガイドラインを設けるとか、支援のための補助制度を収集し公表するとか、自由な活動の基盤を造り政治的にアートを取り込もうとする人たちからアートを護る必要があるのです。今日は、素晴らしい議論をしていただきましてありがとうございました。事務局にお戻しいたします。

(6) その他

事務局より報酬及び会議概要についての説明

(7) 閉会

さいたま市スポーツ文化局文化部文化政策室

電話 829-1225

FAX 829-1996